

ちむらソーシャルネット

繋がっている実感

有限会社ちむらソーシャルネット

田村 満子

「無縁社会」、つながりのない社会、という言葉が今年によく聞かれることになった。我々の周りはどうだっただろうか。

一人で暮らしておられるかた、ご夫婦で暮らしておられるかた、は確かに多い。それでも、風邪をひかれた、腰を痛めて動きにくいなどということが起こっても、我々がいつも以上に支援をさせていたことは、ほんの一握りの方々だ。多くの方は、「いつものがんばりすぎる」ことを止めて、少しでも「助けられ」る側になって、数日後は何事もなかったようにまたいつもの暮らしに戻られている。そうすることが、まるで暮らしの知恵のように感じられる。今日明日の食べるものが必要、という時には、電話一本でなじみの店から運んでもらう方、隣の方が声をかけてついでに買い物に行ってもらう方、普段はなか

なか来られない遠くの「ご家族が

おかずを運んでこられる方。その「助けられ」方は、またそれぞれだが、急にできるものではない。

自分だけがよければということではなく、きつと「助け」る側にもなりながら、つながりを大切に暮らしておられるのだと感じる。

我々もその繋がりのなかに、入っていたり、出てきたり、感じることでできる一年だった。

介護保険制度が始まって、当初から支援させていただいた方々、あるいはご家族の変化を確実に感じる十余年でもあった。亡くなられた方々もおられる。そういうなかで、すでにかなり前に支援させていただくことが終わったという方がご紹介が縁で、出会ったという方が特に多い一年だった。この新たな出会いは、我々の十余年の時間と人が確実に繋がっていることを実感させてくれる瞬間でもあった。繋げていただいた方の顔を想いながら、次へ繋げることができらるだろうか、その縁を大切にしていきたいと強く思う。

専門職と理念、その具体化

梅花女子大学准教授

井元 真澄 様

社会福祉士が誕生して、二十余年。多くの社会福祉士が誕生し、様々な場所で活躍されています。その中でも田村さんは、社会福祉士として常に最前線で、日々活躍、格闘しておられます。

彼女のこの情熱とパワーの源は何であるか？どうしてそこまで利用者のために動けるのか？その答の一つと考えられるものを、2008年に本紙で田村さんが書かれた文章に見つけました。

「誇りに思うことは、揺るがなかつたということだ。私達の理念、『利用者主体の自律した生活を実現する、具体的支援をします』。なにかある度に、判断の根拠をこの理念に戻り、確認を繰り返して支援し続けてきている。」

*

専門職は、知識、技術、価値を身に付けていることが求められます。知識や技術は、経験や学びによって上積み

していくことができます。しかし、価値というのは、上積みではなく、専門職として根底に持ち、常に振り返り確認するものであると考えられます。そして、その価値に照らし合わせて、支援の方向性を設定、修正し、それを実現するために知識や技術を駆使するのが、本来の実践の姿なのでしょう。

*

価値や理念は、言葉や文章だけを眺むと、当たり前のことです。しかし、その当たり前のことを本当の意味で具現化する、というのは難しいのです。田村さんは、自分たちの法人の理念に真摯に向き合い、その具現化に向けて日々奔走しておられます。そこには、専門職としての価値に基づき、実践への「本気」さが見受けられます。

また、その実践の領域は、制度の枠内にとどまらず、先導的、開拓的でもあります。もとより、社会福祉士は、制度の枠内だけで仕事を存在ではないはず。田村さんが歩いた後に、社会福祉士の行く道の中の、確かな一つがあるような気がしています。

96歳に
なりました^□^

お誕生日会

お気に入りの洋服を着て

お化粧をした野木様

とっても綺麗でした♪

徳島へお墓参り



今年も来
ました

初詣



落語家の桂きん太郎さんと

クルージング

井上様の外出録

7月

3月

万博公園で
観梅

大阪城公園で

4月 花見

5月

姫路の
妙光院散策

9月 コンサート

(由紀さおり・安田祥子)

中央公会堂です

